

令和 2 年度第 1 回 横浜市新たな劇場整備検討委員会 委員からの意見（会議開催記録より）

◆資料 2 「令和 2 年度の進め方」について

令和 2 年度の進め方について、各委員からの異議はありませんでした。

◆資料 3 「第 1 回検討委員会資料」について

【本杉委員（委員長職務代理委員）】

- ・「創造」は、とても大切なキーワードであり、創造活動によって、舞台芸術に関わる人材をはじめ、多くのものごとが育って行くため、しっかりと取り組んでほしいと思います。
- ・新たな劇場と横浜美術館や横浜みなとみらいホールとの連携など、様々な芸術分野にまたがる連携は、イノベーションを進める上で、とても大切なことだと思います。オペラ・バレエをはじめとする総合的な舞台芸術に対する柔軟な取組について、今後の部会等の検討の中で示すことができればよいと思います。
- ・地域づくりへの貢献などは、今後、益々重要性が高まると思います。また、「公費負担の考え方を明確にすべき」と書かれている通り、市民の賛同なしには本計画の継続性も成し得ません。そのためにも、オペラ・バレエが身近になる、舞台芸術が身近になる、この場所が身近になる、劇場が親しみやすい場になることが大事です。部会において、こうしたことも加えて、議論していただきたいと思います。
- ・資料 3 「4 管理運営の主な論点 論点 3 育成機能の強化」にあるわが国のバレエの人材育成は重要であると認識しています。新たな劇場の目標像案の人材育成で述べられている通り、舞台芸術全般において望まれていることですが、とりわけバレエに焦点を当てていくことについて、劇場のあり方などの議論の中から整理すべきです。
- ・優れた舞台芸術の創造と発信につながる劇場経営には、一定の公費が必要であることは、今年の検討委員会でも議論がなされ、提言にも盛り込まれました。劇場経営の安定性が高い芸術性の維持向上には不可欠です。その安定性を支えるのが、公費の負担です。公費負担において、持続的な劇場経営の安定性の維持も含め、検討すべきです。
- ・運営主体については、早い段階から新しい組織づくりの検討を本格的に進めることが大変重要ですので、着実に進めてほしいと思います。
- ・まちづくりとしての施設計画の検討は、地域とのつながりにおいてとても大切な課題です。施設面での検討も必要ですが、施設全体をどのように位置付けるのか、どのような方針のもとに、どのような目標に向かって運営していくべきかといった大きな目的にも関わることであり、明確に定義づけていく必要があります。部会でしっかりと検討してもらいたいです。

【明石委員】

- ・「3. 基本計画の主な論点」に、次の論点の追加について、ご検討ください。

論点 3 - α 新劇場へ向かう移動空間のアプローチ・シークエンスの形成（演出）

□現状と課題

- ・新劇場に向かう移動空間は、舞台芸術という非日常的体験へ向かうアプローチルートである。殊にオペラ・バレエといった格式ある舞台芸術の鑑賞に向かう場合は、人は出かけるにあたって品格ある服装に着替え、中には正装をして来場するお客も少なくない。
- ・芸術を体験することの期待に胸を膨らませて劇場を訪れるお客を迎え入れる劇場施設は、建物の外観のシンボル性や、エントランスから座席へと至る建物内のインテリア空間の劇的展開はもちろんのこと、最寄り駅に到着した瞬間から劇場施設へと向かうルートにおいても、心躍らせる期待の感情を一段ずつ高めていく街の空間演出が、巧妙に工夫されていることが望ましい。

□目標

鉄道アクセスの玄関口となる新高島駅と、空港アクセスの玄関口となるYCATとの、2つの歩行者アクセスルートの空間構成について、新劇場における芸術鑑賞にアプローチするに当たり、品格ある非日常体験に心躍る期待を高めていく空間展開のシークエンスを演出する。

□検討の視点

- ・新劇場が立地する予定の新高島駅周辺地区は、開発が進んできたみなとみらい21地区の中でも、今後整備を計画する場所が多く残されている地区である。また、徒歩によるアプローチは、新高島駅から劇場へ至るルートと、横浜駅から劇場に向かうルートとの、2つの歩行者ルートが想定されるが、キング軸の歩行者導線の整備、高島中央公園の修景、空港リムジンバス到着口のYCATのあるスカイビル側からのアクセスルートの改良など、劇場の敷地外において、他の事業主体の深い理解と協力を得て計画・整備されるべき場所が存在する。
- ・こうした状況を踏まえて、アクセスルートに関連するそれぞれの関係各機関と十分な協議調整を図りつつ、舞台芸術の最高峰の施設が立地することの意味と価値観を共有し、他の事業主体が実施する空間整備と連携した景観形成の計画づくりを検討する。
- ・さらに、みなとみらい21地区において、美術、音楽、舞台芸術の3つの芸術部門が、グランモールエリア、クイーン軸エリア、キング軸エリアの3つの地区にセパレートして立地するという空間配置の特性を再認識し、文化芸術創造都市の文脈に照らして、みなとみらい21地区の屋外空間を「街なか舞台」と捉える視点を導入するなど、新劇場の整備に当たって、文化芸術の視点からみなとみらい21地区の都市空間の進化についても検討する。

【新井委員】

- ・資料3 「4 管理運営の主な論点 論点3 育成機能の強化」に関して、育成機能の強化を本格的に行うのであれば、学校や音楽大学（または芸術系大学）と連携して教育カリキュラムに組み込むまで実施すべきと思います。

そのためには、舞台芸術全般に関する教育とその教育機関が必要ですが、特にバレエについては、学士過程・修士課程を取得できる大学が極端に少ない状況ですので、劇場整備の検討と合わせて、ぜひ、研究を進めてほしいです。

- ・現在、新型コロナウイルス感染症の影響から、検討委員会が議論を行った昨年末とは劇場に対する考え方やイメージなどが、市民たちの間で劇的に変化したと思います。多くのアーティストや劇場関係者が仕事を失い、いまだ先行きの見えない状況が続いております。

これまでの委員の皆様方のご意見にもありましたが、新劇場を建設・運営するには、横浜市の市民たちの理解を得るのはもちろんですが、国からの理解と支援がなければ、これほどの大規模な劇場を運営していくのは非常に難しいと感じます。

劇場は文化芸術施設であることは言うまでもありませんが、それよりもまず観光資源である、と考えた方が良いのかもしれない。

今回の新たな劇場整備計画も、今後の横浜市の観光資源としての新劇場、都心臨海部に観光客を呼び寄せる観光名所としての新劇場、と捉えて検討を進めるべきです。

そのためには、自主事業とともに、貸館事業でも質の高いプログラムであれば実施すべきです（例えば英国ロイヤルオペラの新プロダクションがロンドンよりも先に横浜で初演される等の仕組みを作るなど）、国際的な発信力のある放送局との連携も必要になってくると思います。

また、劇場は、芸術の創造と発信の場であり、次代を支える子どもたちへの投資です。必要か必要でないかの二択で議論に陥ることがないように、希望します。

【川本委員】

- ・新型コロナウイルス感染拡大収束後の話題があがっていますが、未だ収束が不透明な状況です。そしてまた、今後、新たな感染症がいつ生まれるかわかりません。新たな劇場における舞台芸術の在り方（公演側、参加側、また地域社会の側面）を議論するなど、引き続き着実に検討を進めていただきたいと思います。

【笹井委員】

- ・事業内容を検討するにあたり、優れたオペラ・バレエを主体とありますが、具体的にどのようなものを指すのか明示しておくべきと考えます。また、オペラ、バレエと一緒に議論するのも、ビジネスモデルは異なり、事業計画レベルでは限界があります。オペラとバレエの取組について考え方をしっかりしておくべきであり、部会でも、検討を深めていただきたいです。
- ・新型コロナウイルス感染拡大収束後の舞台芸術の進むべき方向についてしっかりと検討することで、新たな劇場整備の必要性に対する、明確な答えが導き出せるのではないかとと思うので、非常に重要な観点であると考えます。

【残間委員】

- ・新型コロナ拡大防止の中で、社会全体が不安定で、経済環境も厳しい状況が続いています。こうした情勢において、国や自治体がしっかり取り組むべきことが求められています。
新たな劇場整備は、横浜の中長期的な視点からの文化芸術を支える施設であり、その議論を進めていくことと現在の厳しい情勢における対応を認識して検討を進めていくべきです。

【角南委員】

- ・資料3「5 基本計画の主な論点 論点4 文化芸術による都心臨海部のまちづくり」で「観光・MICE・文化芸術」の連携によるまちづくりの推進が重要と書かれていますが、これまでのようなインバウンドによる経済効果がすぐには期待できない可能性があります。「ニューノーマル」への取組みでどう勝ち残るか、しっかり議論していくことが求められます。新たな劇場整備について、世界に通用するコンテンツの提供だけでは、観光、MICEを押し上げるには力が弱いと感じます。今後の議論でそのあたりをしっかり描くことができると考えます。

【西川委員】

- ・新たな劇場の目標像について、国内外のトップクラスの実演団体等の上演を通し、舞台芸術がより一層市民にとって身近なものとなり、その豊かさを市民一人ひとりが享受できるようにしてほしいと思います。
- ・資料3「4 管理運営の主な論点 論点2 次世代育成及び地域の文化芸術の活性化」について、子ども頃から質の高い舞台芸術の体験ができるように検討してほしいと思います。

【羽生委員】

- ・両部会が共通して取り組まなければならない論点もかなり見受けられるように思います。
他の自治体の委員会ではやはり部会形式で検討を進めた経験がありますが、互いに関連することが多い中で、それぞれで何をどこまで出していくのか、結局割った分だけ時間と手間が余計にかかって、かつメンバー間が共有できた話に収斂してしまっていて議論が小さくまとまっていく傾向にあった、ということがありました。
よりよい成果を出していくために、論点の整理や参加メンバー間の認識の共有化が大変重要となると思います。
- ・新たな劇場整備の目標像が、例えば、「国際競争力」「地域活性化」、「地域社会の育成や活力」などがあるが、目指すところが分かりにくく、また、以降の論点においても、明確なものが見いだせない面があります。
目標像は大切な部分であるため、明確になるよう検討してほしいと思います。
- ・資料3「5 基本計画の主な論点 論点4 文化芸術による都心臨海部のまちづくり」については、管理運営の面からも検討を要する内容であるとともに、具体的にどういった議論を行うのかわかりにくいので、検討の進め方含め、検討いただいた方が良いのではと思います。
- ・施設単独の検討（ハード・ソフト）、まちづくりへのコミット（ソフトあるいは長期的視点）というように、仕分けして検討を進めることも有効と思います。

【藤野委員】

- ・資料3「管理運営の主な論点 論点1 事業内容及び上演プログラム案」において、新たな劇場は優れたオペラ・バレエを主体としていると記載されていますが、今回の新たな劇場のメインとなるプログラムのジャンルを何とするか。国内の実演団体の状況や収支状況などを考慮しながら、検討してほしいと思います。
- ・資料3「管理運営の主な論点 論点2 次世代育成及び地域の文化芸術の活性化」は、舞台芸術の裾野を広げるために極めて重要です。専属のバレエ団や合唱団を備えることができれば、アウトリーチなどの教育普及事業を恒常的に展開できると思います。また、そのための部門と専門職員を雇用する必要もあると思います。
- ・バレエに関して育成機能を論じる上で、バレエダンサーの現役期間は短いため、セカンドキャリアの問題を合わせて考える必要があると思います。中にはコーチや芸術監督として後進の指導に携わる人もいますが、そのポストは限られているため、アートマネジャーなどへの転身をする人も多いのが現状です。
大都市圏の場合、既存のバレエ団、バレエ教室が複数地元で根を張って活動しています。こうした関係性の中で、クオリティをキープするにはどうすればよいか、具体的かつ現実的な議論が必要です。
- ・資料3「管理運営の主な論点 論点4 資金計画と財源確保」において、プログラムに係る収支の健全性確保の「健全性」とは何を意味するのか、その「哲学」について、多くの人を巻き込んで議論する必要があります。ここの合意形成が不十分だと、社会経済情勢が変化した場合に弱点となります。
頂点を引き上げるためには、それを安定させるための裾野を可能なかぎり広げる必要があるため、このことから「論点3 育成機能の強化」の中身が極めて重要となると思います。
- ・新型コロナウイルス感染拡大収束後の舞台芸術の進むべき方向について、舞台芸術におけるデジタル化のようなテクニカルな面の促進だけでなく、社会的秩序を安定させる「連帯」「寛容性」「多様性と自由」などといった価値観の涵養が大切だと思います。芸術文化への先行投資がいかにか社会にとって、人間的に生きることにあって、必要不可欠かを論証できると思います。